

【今年度のテーマ・聖句】

「感謝と前進

—キリストにつながり共に生きる—
わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。

(ヨハネ福音書 15 章 4 節)

教会創立 99 周年

週 報

2021 年 9 月 19 日 5151 週

巻 頭 言

伊藤光雄牧師

「老いを創める」

「この世の最上の業は何？ 楽しい心で年をとり、働きたいけれども休み、しゃべりたいけれども黙り、失望しそうなときに希望し、従順に、平静に、おのれの十字架をになう。若者が元氣いっぱい神の道を歩むのを見ても、ねたまず、人のために働くよりも、謙虚に人の世話になり、弱っても、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること。老いの重荷は神の賜物、古びた心に、これで最後のみがきをかける。まことのふるさとへ行くために。おのれをこの世につなぐさを少しづつはずしていくのは、真にえらい仕事。こうして何もできないなれば、それを謙虚に承諾するのだ。神は最後にいちばんよい仕事を残してください。それは祈りだ。手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために。すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声を聞くだろう。『来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ』と。」

（ホルヴェルス随想選集「人生の秋に」の「年をとるすべより」）

故日野原重明氏は老年期を「老いを創める」と表現しました。そして裸の自己となって身についた知恵と技とを世のために還元する業に励むことができれば、それこそ創造的引退がはじめられると言われました。

ある人は「青年時代は、一日は短く一年は長い。老年時代は、一日は長く一年は短く」と言いましたが、「老いを創める」生き方ができると、一日は短く充実していくのではないのでしょうか。

日本バプテスト シオン山教会

牧師：伊藤光雄

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

TEL:093-561-0772 Fax:093-561-0760

E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

HP-address: <https://bapzion.com>



◆ 主日礼拝

午前 10 時 30 分

司会 藤田小四郎執事
奏楽 田中由紀子姉

前 奏
招 詞 コリントー 1 : 3 0
頌 栄 6 7 0 (主のみ名をほめまつれ)
主の祈り (新生讃美歌の扉を参照)
讃 美 4 6 - 1, 3 節
(喜びの歌を主に向かって歌え)
敬老祝福
聖 書 詩篇 9 2 : 1 3 ~ 1 6
(新共同訳 931 p 口語訳 831 p)
祈 禱
宣 教 「 人生の秋を輝く 」
伊藤光雄牧師
祈 禱
讃 美 4 3 5 - 1, 4 節
(山辺に向かいてわれ)
献 金 祈り : 高崎満兄
(受付当番)
報 告
頌 栄 6 7 9 (ベネディクション)
祝 禱
後 奏 伊藤光雄牧師

◎今月の聖句

「どこまでも主に信頼せよ、主こそは
とこしえの岩」
(イザヤ書 26章4節)

今月の当番役員

二木榮子 下川礼子

本日の集会

教会学校

幼稚科・小学科・中高科・
青年科・成人科
9 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5

主日礼拝の当番

受付 : 船津丸泰 田中登美子
二木榮子 (当番役員)

お花 : 酒井光子

教会学校科長会 11 : 45 ~ 12 : 30

◎今週の集会 (9月19日~9月25日)

22日(水) 19時30分
祈りを合わせましょう

<聖書> エゼキエル 43 : 1 ~ 12

祈禱会 I・II は 9月休会します。

今週の聖書日課と祈り

19日(日) 使徒言行録 11章 藤田 恒
20日(月) 使徒言行録 12章 下川礼子
21日(火) 使徒言行録 13章 酒井光子
22日(水) 使徒言行録 14章 庄司まり子
23日(木) 使徒言行録 15章 鴉かよ子
24日(金) 使徒言行録 16章 藤岡幹隆
25日(土) 使徒言行録 17章 満嶋 明